

References (和文献)

アガンベン、ジョルジョ

- 2000 高橋和巳訳『人権の彼方に 政治哲学ノート』(以文社)。
- 2001 上村、廣石訳『アウシュヴィッツの残りもの - - アルシーブと証人』(月曜社)。
- 2003 高桑和巳訳『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』(以文社)。

アーレント、ハンナ 1972 大島・大島訳『全体主義の起原 2 帝国主義』(みすず書房)。

飯島昇藏 2001 『社会契約』(東京大学出版会)。

飯田文雄 1998 「現代リベラリズム論の批判的再構成」『神戸法学雑誌』第 47 巻 4 号、第 48 巻 3 号。

市野川容孝・村上陽一郎 1999 「安全性をめぐる」『現代思想』第 27 巻第 11 号。

市村弘正

-----1994 「家族という場所」『小さなものの諸形態』(筑摩書房)。

-----1998 『敗北の二十世紀』(世織書房)。

井上達夫(編) 2006 『公共性の法哲学』(ナカニシヤ出版)。

VAWW-NET(編) 2001 『裁かれた戦時性暴力』(白澤社)。

上野千鶴子

----- 1986 『女は世界を救えるか』(勁草書房)。

----- 1990 『家父長制と資本制 マルクス主義フェミニズムの地平』(岩波書店)。

----- 2006 『生き延びるための思想 ジェンダー平等の罨』(岩波書店)。

ヴェーバー、マックス 1960 石尾芳久訳『国家社会学』(法律文化社)。

----- 1980 脇圭平訳『職業としての政治』(岩波文庫)。

ウォリン、シエルドン 1994 尾形、福田[ほか]訳『西欧政治思想史』(福村出版)。

梅木達郎

-----2002 『脱構築と公共性』(洛北出版)。

-----2005 『支配なき公共性 デリダ・灰・複数性』(洛北出版)。

ウルフ、ヴァージニア 1999 川本静子訳『自分だけの部屋』(みすず書房)。

江原由美子

----- 1988 「差別問題の構造」『フェミニズムと権力作用』(勁草書房)。

----- 1991 『ラディカル・フェミニズム再興』(勁草書房)。

----- 1998 (編)『フェミニズムの主張 4 性・暴力・ネーション』(勁草書房)。

----- 2000 『フェミニズムのパラドクス 定着による拡散』(勁草書房)。

岡真理 1998 「「同じ女」であるとは何を意味するのか」『フェミニズムの主張 4』。

岡野八代

----- 2000a 「暴力論再考」『情況』(5月号)。

----- 2000b 「人間の条件と物語論の接点」『立命館法學』第 274 号。

----- 2002 『法の政治学 法と正義とフェミニズム』(青土社)。

----- 2003a 「正義論の限界とグローバル・フェミニズムの可能性」竹村和子編『“ポスト”フェミニズム』(作品社)。

----- 2003b 「境界のフェミニズム」『現代思想』第 31 巻第 1 号。

----- 2004a 「法 = 権利の世界とフェミニズムにおける「主体」」和田、櫻村編『法社会学の可能性』(法律文化社、2004年)所収。

----- 2004b 「家族の両義性」『現代思想』第 32 巻第 10 号。

----- 2006a 「「承認の政治」に賭けられているもの 解放か権利の平等か」『法社会学』64 号。

----- 2006b 「ジェンダーの政治に賭けられているもの」『法律時報』第 76 巻第 1 号。

----- 2007 「フェミニズムにおける公共性「問題」」『立命館法學』(316号)。

- 2008「女から生まれる 「家族」からの解放 / 「ファミリー」の解放」戒能民江編『国家 / ファミリーの再構築 人権・私的領域・政策』(作品社)所収。
- 2009a『シティズンシップの政治学 国民・国家主義批判(増補版)』(白澤社)。
- 2009b「ジェンダー」飯島・佐藤・太田編『現代政治理論』(おうふう)所収。
- 荻野美穂 2001『中絶論争とアメリカ社会』(岩波書店)
- オークショット、マイケル 2007 中金聡訳『リヴァイアサン序説』(法政大学出版局)。
- 落合恵子 2007『母に歌う子守歌 わたしの介護日誌』(朝日新聞社)。
- カー、E.H. 1996 井上茂訳『危機の二十年』(岩波文庫)。
- 春日キスヨ 2000『家族の条件 豊かさのなかの孤独』(岩波現代文庫)。
- 萱野稔人 2005『国家とはなにか』(以文社)。
- 川本隆史 2004「ニーズを論じ合うことは、どんな人間のつながりを創り出すのか 公共性と倫理」安彦・谷本編『公共性の哲学を学ぶ人のために』(世界思想社)所収。
- 川本隆史(編)
- 1998『新・哲学講義 6 共に生きる』(岩波書店)。
- 2005『ケアの社会倫理学 医療・看護・介護・教育をつなぐ』(有斐閣選書)。
- カント、イマヌエル
- 1960 篠田英雄訳『道徳形而上学原論』(岩波文庫)。
- 2000a 北尾宏之訳『理論と実践』『カント全集 14』(岩波書店)。
- 2000b 福田喜一郎訳『啓蒙とは何か』『カント全集 14 歴史哲学論集』(岩波書店)。
- 2002 樽井正義・池尾恭一訳『カント全集 11 人倫の形而上学』(岩波書店)。
- 栗原彬
- 2005『「存在の現れ」の政治』(以文社)。
- 2007「「新しい人」の政治の方へ」『年報政治学』2007年度第2号。
- 小玉重夫 2003『シティズンシップの教育思想』(白澤社)。
- 後藤玲子 2002『正義の経済哲学—ロールズとセン』(東洋経済新報社)。
- コーネル、ドゥルシラ 2003 岡野八代訳「フェミニストの想像力」『現代思想』第31巻、第1号。
- コールバーグ・レバイン・ヒューア—1992 片瀬・高橋訳『道徳性の発達段階 コールバーグ理論をめぐる論争の回答』(新曜社)。
- 斎藤純一
- 2004「社会的連帯の理由をめぐって 自由を支えるセキュリティ - -」斎藤純一編『福祉国家/社会的連帯の理由』(ミネルヴァ書房)。
- 2005『自由』(岩波書店)。
- 斎藤真緒 2003「「ケア」をめぐるアポリア 「ケア」の理論的系譜」『立命館人間科学研究』、第五号。
- 酒井隆史 2004『暴力の哲学』(河出書房新社)。
- 坂上香 2004「コミュニティ・オブ・チョイス 犯罪者の更生施設から見た家族問題とオルターナティブ」『現代思想』第32巻第10号。
- 佐々木毅(編) 2001『公共哲学 1 公と私の思想史』(東京大学出版会)。
- 笹沼弘志 2008『ホームレスと自立/排除 路上に 幸福を夢見る権利はあるか』(大月書店)。
- 篠田英朗
- 2000「国際政治学における主権、現実主義、そしてウェストファリア—カー、モーゲンソー、ブル、ウォルツに焦点をあてて—」『社会文化研究』第26巻。
- 2003『平和構築と法の支配 国際平和活動の理論的・機能的分析』(創文社)。

- 渋谷望 2003 「排除空間の生政治」 齊藤純一編『親密圏のポリティクス』(ナカニシヤ出版) 所収。
- シューメーカー、ミリアード 2001 加藤尚武・松川俊夫訳『愛と正義の構造 倫理の人間学的基礎』(晃洋書房)。
- 杉田敦 2000『権力』(岩波書店)。
- 鈴木裕子 1994『朝鮮人とフェミニズム』(明石書店)。
- セン、アマルティア 1999 池本・野上・佐藤訳『不平等の再検討 潜在能力と自由』(岩波書店)。
- 千田有紀 2002 「フェミニズムと植民地主義 岡真理による女性性器切除批判を手がかりとして」『大航海』第43号。
- 高橋哲哉 1995『記憶のエチカ 戦争・哲学・アウシュヴィッツ』(岩波書店)。
- 竹村和子 2001 「フェミニズムは新しい時代に入った」『大航海』(7月号別冊)。
- 田村哲樹 2009『政治理論とフェミニズムの間 国家・社会・家族』(昭和堂)。
- 千葉眞 1994 「愛の概念と政治的なるもの アーレントと集合的アイデンティティの構成」『思想』第八四四号。
- 辻村みよ子(金城清子との共著) 1992『女性の権利の歴史』(岩波書店)。
- 辻村みよ子 2009『憲法とジェンダー 男女共同参画と多文化共生への展望』(有斐閣)。
- 土佐弘之
 ----- 2003『安全保障という逆説』(青土社)。
 ----- 2007 「"主体化の暴力"を超越するケアの倫理—脆い生への対応をめぐって」『思想』993号。
 ----- 2008 「アメリカの戦争における道徳的文法の系譜」菅英輝編『アメリカの戦争と世界秩序』(法政大学出版局) 所収。
- 中金聡 2007 「主体と臣民のあいだ リヴァイアサン における悪の政治学」太田義器・谷澤正嗣編『悪と正義の政治理論』(ナカニシヤ出版)。
- 永田えり子 1997『道徳派フェミニスト宣言』(勁草書房)。
- 中山道子 2000『近代個人主義と憲法学 公私二元論の限界』(東京大学出版会)。
- 中野剛充 2007『テイラーのコミュニタリアリズム 自己・共同体・近代』(勁草書房)。
- 西川長夫 2003 「多文化主義から見た公共性問題 公共性の再定義のために」山口ほか編『新しい公共性 そのフロンティア』(有斐閣)。
 ----- 2006『「新」植民地論 グローバル時代の植民地主義を問う』(平凡社)。
- ニーチェ、フリードリヒ
 ----- 1940 木場深定訳『道徳の系譜学』(岩波文庫)。
 ----- 1954 竹山道雄訳『善悪の彼岸』(岩波文庫)。
- 野崎綾子 2003『正義・家族・法の構造変換 リベラル・フェミニズムの再定位』(勁草書房)。
- 信田さよ子 2008『母が重くてたまらない 墓守娘の嘆き』(春秋社)。
- バシュラール、ガストン 2002 岩村行雄訳『空間の詩学』(ちくま学芸文庫)。
- 濱真一郎 2008『バーリンの自由論 多元論的リベラリズムの系譜』(勁草書房)。
- 半澤孝磨 2006『ヨーロッパ思想史のなかの自由』(創文社)。
- 東琢磨 2004 「生者と死者のはざまに浮かぶ 家族」『現代思想』第32巻10号。
- フィールド、ノーマ 2006 大島かおり訳『へんな子じゃないもん』(みすず書房)。
- フクヤマ、フランシス 2001 末廣幹訳「「アメリカの例外的立場」の終わり」『現代思想』第29巻第13号。
- フーコー、ミシェル 2006 小林・石田・松浦訳『フーコー・コレクション 生・政治・統治』

(ちくま学芸文庫)

- プラトン 1979 藤沢令夫訳『国家』(岩波文庫)。
ヘーゲル、G.W.F
----- 1998 長谷川宏訳『精神現象学』(作品社)。
----- 2000 長谷川宏訳『法哲学講義』(作品社)。
ボーヴォワール、シモーヌ・ド
----- 2001 (I)「第二の性」を原文で読み直す会訳『決定版 第二の性「事実と神話」』(新潮文庫)。
----- 2001 (II)『第二の性 体験 [上]』。
----- 2001 (III)『第二の性 体験 [下]』。
ホスケン、フラン 1993 鳥居千代香訳『女性割礼 因習に呪縛される女性の性と人権』(明石書店)。
ホネット、アクセル
----- 2003 山本啓・直江清隆訳『承認をめぐる闘争 社会的コンフリクトの道徳的文法』(法政大学出版局) Trans. by Joel Anderson, *The Struggle for Recognition: The Moral Grammar of Social Conflict* (Cambridge: MIT Press, 1996).
----- 2005 加藤泰史・日暮雅夫他訳『正義の他者』(法政大学出版局) Trans. by Joseph Ganahl (et al.), *Disrespect: The Normative Foundations of Critical Theory* (Cambridge: Polity Press).
松葉祥一 2001 「ポストモダニズム/ ポスト構造主義」姜尚中編『ポストコロニアリズム』(作品社)。
三成美保 2006 「いくつかの論点から 議論の架橋をめざして」三成美保編『ジェンダーの比較法史学 近代法秩序の再検討』(大阪大学出版会)。
牟田和恵
----- 1996 『戦略としての家族 近代日本の国民国家形成と女性』(新曜社)。
----- 2006 『ジェンダー家族を超えて 近現代の生/ 性の政治とフェミニズム』(新曜社)。
ムフ、シャンタル 2006 葛西弘隆訳『民主主義の逆襲』(以文社)。
本橋哲也 2006 「グラウンド・ゼロは語る事ができるのか 9・11以降のバトラー」『現代思想』第34巻12号。
モーリス・スズキ、テッサ 2004 辛島理人訳『自由を耐え忍ぶ』(岩波書店)。
森政稔
----- 1994 「政治思想史のフェミニスト的解釈によせて」『ジェンダー』(新水社)。
----- 2008 『変貌する民主主義』(ちくま新書)。
山根純佳 2004 『産む産まないは女の権利か フェミニズムとリベラリズム』(勁草書房)。
米山リサ 2003 『暴力・戦争・リドレス 多文化主義のポリティクス』(岩波書店)。
ルソー、ジャン＝ジャック
----- 1933 本田・平岡訳『人間不平等起原論』(岩波書店)。
----- 1954 桑原・前川訳『社会契約論』(岩波文庫)。
----- 1968 前川貞次郎訳『学問芸術論』(岩波文庫)。